

議事要旨

事務局から基本構想素案が示され、これに対する以下のような意見等が出された。

(1) 整備の考え方について

(基本方針と展開方向について)

飛鳥は全体が典型的なオープンミュージアムであり、キトラ古墳はその中のひとつの拠点となるため、公園計画の検討にあたっては地元自治体の将来構想との整合性に配慮が必要。

国営公園の5つ目の拠点をつくるのであるから、利用者の増加を目指すような方策が必要。時間単価を安くして延べ時間を増やすなど、トータルとして地域が潤うような工夫が必要。

地域の活性化のためにも滞在型の利用を目指すべき。さまざまな利用者に対応する宿泊施設の検討が必要。

ただし国営公園における宿泊施設については「官民の役割分担に関する閣議決定」により新設は困難であるため、祝戸荘の有効活用や民間施設と連携を強化すべき。

国民生活白書でボランティアの時代が強調されている現状を踏まえ、ボランティア活動により歴史的風土を保全することを考えるべき。

地域内で多数のボランティア団体が活動しているがこれらの連携を図ること、活動の拠点をキトラ古墳周辺地区計画することなどを検討されたい。

(導入機能について)

体験的歴史学習の具体的展開方法等を今後具体的に検討すべき。

キトラ古墳では東アジアにおける壁画古墳を体験学習のテーマとし、類例、系列等を関連づけて理解できるようにすることが考えられる。

キトラ古墳の特色は天文図、四神であり、古代の風水思想、天文考古学(アストロアーキオロジー)をテーマに取り上げることにより海外からも関心を集めることができる。

(2) ゾーニング計画について

(公園区域の考え方について)

飛鳥駅から計画区域への動線の中で檜前寺は非常に重要な意味をもっているため、檜前寺を取り囲む区域を可能な限り拡大されたい。

古都の買入地は地方公共団体の財産なので、国が使用する、買い取ることは現実的に困難。基本的に公園の周辺あるいは隣接する買入地と連携、役割分担しながら一帯を保全、活用していくことが望ましい。

(ゾーニング計画の考え方について)

保全活用エリアの田園環境創出ゾーンは谷筋と山の両方含んでいるため、谷筋、里山あわせて具体的な利活用の方法を検討されたい。

行政界付近の尾根上は西の金剛・葛城方面への眺望が優れているので、これを活用すれば魅力が増すと思われる。

区域内の管理ゾーンについては、景観面で十分に配慮が必要。

6. 今後の進め方について

(国民の意見募集について)

整備の基本的な考え方について意見を募集する

期間は11月21日から2週間

配布場所は国営飛鳥歴史公園内、奈良県都市計画課、明日香村、周辺市町村、飛鳥保存財団、近鉄 飛鳥駅、あべの橋駅等

国営飛鳥歴史公園のホームページ上でも募集

結果については第3回委員会において提出。

(第3回検討委員会について)

12月中旬開催